■今月の特選句

2016年5月

勇み立つ春埃ほどバス行かず　金澤　健

国道もかつてホコリ高き酷道でしたね。今はそれも懐かしき風景。「春塵に隠され行き先表示板」「乗ってから行き先尋ね田舎バス」。

週刊誌拡げただけの花筵　飯塚ひろし

読み終えし週刊雑誌の使い道。各自持参で幹事さんも楽勝。しかしながら、この場合お相撲さんなどお尻の大きな御仁には無理か。

覗き穴塞がれており春障子　髙田敏男

「塞がれて別穴開ける春障子」「根気よく春の障子の穴塞ぐまたも穴開け根気比べに」「開けて貼る根気と技はここに育つや日本万歳」。

枝ぶりにいぢめを競ふ盆梅展　小林英昭

いぢめられこの百年を生きてきた盆梅にある運命は、なんかとつてもお気の毒。枝ぶりの「ぶり」は、結局いぢめられぶり。

土筆摘むネイルアートを真っ黒に　久我正明

山菜を摘んで汚した爪五本。両手合わせて十本をゴシゴシ洗ってはみたが、遂にあきらめてその黒をネイルアートと見立てたんだね。

あどけない小鳥も母に抱卵期　八塚一青

さくら貝や天使魚、クリオネらも、みんな清純なんだけどしっかり子孫をつくっている。あのあどけない小鳥もまた母になるとて不思議にあらず。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

練馬には植田の無くて大根畑　氏家頼一
・・・大根畑も減ったらしいよ

廻るだけまわれば止まる風車　稲沢進一
・・・風ぐるまにも意志のあるかに

山笑ふ耳の辺に振る貯金箱　越前春生
・・・今じゃマイナス金利の音よ

馬鹿されたことも気付かぬ万愚節　高橋きのこ
・・・せちがらい世にのほほんとして

取り外し可となる齢義歯の春　飛田正勝
・・・義歯を磨いて仲良い夫婦

春一番シャッタ通り歯ぎしりす　笠　政人
・・・閉店続き悔しいらしい

べたべたと春の情報広報板　山本　賜
・・・全部読んだら眼精疲労

しがらみをひきずつてゐる零余子蔓　梅岡菊子
・・・零余子ぼろぼろ独立志向

四月馬鹿毎日出るのが金とごみ　青木輝子
・・・極貧なればゴミすら出さん

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

桜餅葉は胃の中かごみ箱か　井野ひろみ
・・・食べかけ捨てる桜餅の葉

包囲網天網恢恢鳥曇　工藤泰子
・・・そこをなんとか抜ける悪者

酒たばこ学校生活卒業す　小泉花子
・・・これを機会にやめたらどうか

夜桜や電気明りの外にこそ　青山桂一
・・・ホントのワタシねえ見て見てと

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	四月馬鹿充電中のロダン像	青木輝子
【佳作】	減る預金増えるは病万愚節	青木輝子
【佳作】	残る鴨諍ひはよせ数少な	青山桂一
	籬(まがき)越し桜の大木空へ展(の)ぶ	青山桂一
【佳作】	もしかして佐保姫はあの美人かも	赤瀬川至安
	ぢぢばば来ぼくはちよこまか卒園す	赤瀬川至安
	ねぎみそと味噌田楽のわーいわい	赤瀬川至安
【佳作】	囲碁で完敗されど乾杯木の芽和	秋月裕子
	菜の花や疎開した頃なつかしむ	秋月裕子
	受ける可くして強者に花嵐	秋月裕子
	行く春を知らざる人と惜しみけり	飯塚ひろし
【佳作】	代掻きて地蔵の顔に泥を塗り	飯塚ひろし
【佳作】	交互には足をはこべず群れ雀	井口夏子
	さわぐ闇浅利が飛ばすお漏らしよ	井口夏子
	散る桜両手を嫌ひ水に浮く	井口夏子
【佳作】	時来ればあの枯枝に桜咲く	池田亮二
	芳紀十六ペンキ塗りたて初化粧	池田亮二
【佳作】	犬ふぐりまだ現役の肥柄杓	伊藤浩睦
	獣交む不倫の出来ぬ非文化人	伊藤浩睦
	陸軍記念日息子も誘はれて	伊藤浩睦
	縦のもの横にしてみる春の暮	伊藤洋二
	遠足のしんがりの児の得意顔	伊藤洋二
【佳作】	モネの絵に光と風の春日傘	伊藤洋二
【佳作】	風光るワイングラスが空になり	稲沢進一
	日の当たるところにすみれ咲きにけり	稲沢進一

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	嘘発見器の性能テスト四月馬鹿	稲葉純子
【佳作】	血圧計ではかれぬ春の憂かな	稲葉純子
	青空にグーチョキパーの白辛夷	稲葉純子
【佳作】	吾の生気満開の花奪ひけり	井野ひろみ
	雨降りて水のしたたる花盛り	井野ひろみ
	大根白しマグマの赤を吸ひとりて	上山美穂
【佳作】	航空機霞の化粧水浴びる	上山美穂
	春はまだかとキリンは首のばす	上山美穂
	戰陣に虱蠢く千人針	氏家頼一
【佳作】	円柱の五月の影に待つ女	氏家頼一
【佳作】	月影を踏む梅の香をまとひつつ	梅岡菊子
	水無月の風に弾けて大正琴	梅岡菊子
【佳作】	朧月蹤いて来いよと千鳥足	越前春生
	陶片のへのへのもへじ竹の秋	越前春生
	喜びの後に試練の五月病	岡野　満
【佳作】	田植機に乗って早乙女風を切る	岡野　満
	碁敵に草餅貰い緩む石	岡野　満
	雪解けで三途の川も川止めに	小川飩太
	彼の岸へ渡る運賃また値上げ	小川飩太
【佳作】	目覚しの二個三個五個春眠し	小川飩太
	騙されて騙し返して四月馬鹿	奥脇弘久
【佳作】	老桜杖数本に支へられ	奥脇弘久
	花冷に膝の痛みも痩せ我慢	奥脇弘久
【佳作】	出つ尻のオンパレードよ汐干狩	加川すすむ
	二度となき高齢者なり春の夢	加川すすむ
	宿六も絶滅危惧種万愚節	加川すすむ
【佳作】	嘘一つ吐（つ）けず暮れゆく万愚節	笠　政人

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	鶯の地味な色して玉の声	笠　政人
	つくしんぼ摘まれる順の背くらべ	金澤　健
【佳作】	悟りとは逃げ水なりと悟りけり	金澤　健
【佳作】	うららかや鳥鳴きをどりだす音符	川島智子
	ミモザゆるるバレースクール猛練習	川島智子
	花並木風にゆらゆらフラダンス	川島智子
【佳作】	空耳にされてしまひし春の雷	菅野あたる
	太陽の季節は遠し夏近し	菅野あたる
	「たら」「れば」とつい口に出て春惜しむ	菅野あたる
	飛行機の墜落記事や鳥帰る	久我正明
【佳作】	白障子やはり誰かののぞき穴	久我正明
【佳作】	木瓜の花落ちは俳句の落語かな	工藤泰子
	臥龍梅咲く門前の土竜穴	工藤泰子
	鼻先のむずかる今朝の花粉症	小泉花子
【佳作】	オープン戦なれば気楽に甲子園	小泉花子
	春雨や傘はいらぬと気障な奴	小林英昭
【佳作】	恋猫のモンローウオーク塀の上	小林英昭
	人寄せに飽きてしまつて散る櫻	下嶋四万歩
【佳作】	踏ん張つて散華をこばむ老櫻	下嶋四万歩
	地虫出て老いも若きも女子会に	下嶋四万歩
	秘宝館氷柱の如に堅くなり	壽命秀次
【佳作】	夜遊びを諌む妻似の雛の目	壽命秀次
	おばちゃんを艶声に変ふ花粉症	壽命秀次
	菖蒲湯や兄弟げんかの傷染みる	鈴鹿洋子
【佳作】	蜂の巣の静かに育つ軒の下	鈴鹿洋子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	夢中で草取る自由時間	鈴木和枝
	エスカレーターの速さに今脈合せます	鈴木和枝
【佳作】	世の中知りつくした人参が甘い	鈴木和枝
【佳作】	駄駄こねて転ぶ道端仏の座	髙田敏男
	屋根替や坊主頭を長髪に	髙田敏男
【佳作】	花見客去りて鴉の宴かな	高橋きのこ
	子のしやぼん取り上げ夢中親の吹く	高橋きのこ
【佳作】	老人の仙人なりたし春の山	田中　勇
	音楽の身をいやしたる春の朝	田中　勇
	横町から独り観たる春の虹	田中　勇
	「わたし綺麗？」とっても綺麗万愚節	田中早苗
	焼牡蠣の香を頂けりテレビより	田中早苗
【佳作】	鳥の恋五感の一つ目覚めさす	田中早苗
【佳作】	水温む凶器以外は研ぎまつせ	田村米生
	幹事まづ会費徴収花蓆	田村米生
	お巡りの信じてくれぬ四月馬鹿	田村米生
	ゴルフ場ボール探して蕨つむ	津田このみ
【佳作】	川幅を渡る用済み鯉幟	津田このみ
	人間も猫もうかれて春の宵	津田このみ
	懲りてない上司を笑ふ山笑ふ	土屋泰山
	春眠をむさぼる男時計ぶつ	土屋泰山
【佳作】	花衣声を若やぐ老女優	土屋泰山
	来年の曜日気になる昭和の日	都吐夢
【佳作】	選良の沈思黙考目借時	都吐夢
	影薄き狼少年四月馬鹿	都吐夢
	ライトアップされてはにかむさくらかな	飛田正勝
	もう幾つ寝ると一億花の下	飛田正勝
【佳作】	春雷に夫婦喧嘩も後回し	中井　勇
	卒業に涙流す子素知らぬ子	中井　勇
	六千歩今日のノルマに風光る	中井　勇
	待つてました桜鶯草の餅	新島里子
	万愚節サイタサイタがそもはじめ	新島里子
【佳作】	耳遠くなりてこのかた亀の鳴く	新島里子
【佳作】	入学のその日恋する森昌子	西をさむ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	スイートピー松田聖子も年重ね	西をさむ
	一本は加藤登紀子のバラでよい	西をさむ
【佳作】	四月馬鹿ふくらみジョークの域を超え	花岡直樹
	色かたちドレミも基本チューリップ	花岡直樹
	スーパーのビール彩る缶ザクラ	花岡直樹
	易々と子ねこの欠伸もらひけり	原田　曄
	そのわけを一度訊きたき残る鴨	原田　曄
【佳作】	抜刀をねだる子なだめ雛納	原田　曄
	筍の見目美しや吾が掘れば	ひがし愛
【佳作】	千手観音あの手この手や春の夢	ひがし愛
	イケメンの声がだみ声万愚節	ひがし愛
	マナー札持たされて居る桜の木	久松久子
	鳩に首傾げられゐて花見酒	久松久子
【佳作】	中腹まで家しがみつき山笑ふ	久松久子
	点滅の脳の回路や春眠し	日根野聖子
【佳作】	春昼の仔豚尻尾のくるくるり	日根野聖子
	図書館に長居をすれば暮遅し	日根野聖子
	清明やスカート納めぬ膝小僧	藤岡蒼樹
【佳作】	路地幅の風に擦れる花吹雪	藤岡蒼樹
	観潮の真只中を航跡渦	藤岡蒼樹
	ひと目惚れ春つてそんなものなのさ	藤森荘吉
	あくまでも鼻唄交り大掃除	藤森荘吉
【佳作】	春埃ハウスダストとハイカラに	藤森荘吉
	底抜けの青に溶け入る寒桜	藤原セツ子
	かいつぶり水面のバスと競ひ合ふ	藤原セツ子
【佳作】	桜湯の花の音なく開きけり	藤原セツ子
	花冷えや飲めば飲む程酔いが醒め	細川岩男
【佳作】	人の波人人人と花見かな	細川岩男

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	花散らし冷たき雨の無情さよ	細川岩男
	氾濫のごとく花散る雨の朝	細川寛子
【佳作】	か弱きは若さとセットすみれ草	細川寛子
	爆という冠かぶり花見かな	細川寛子
【佳作】	陽だまりを探して坐り蕗の薹	本門明男
	音立てて食ふ揚げたての蕗の薹	本門明男
	坊ちゃん列車満員となり春うらら	本門明男
	たどりつきしだれ桜をひと巡り	松井寿子
【佳作】	掃きよせる赤い椿と白椿	松井寿子
	花に酔い疲れてもおりお薄のむ	松井寿子
	花粉症推敲中の句も嚔	松井まさし
	消し忘れ黒板の戯画春眠に	松井まさし
【佳作】	葬列と遠足の列そむきあう	松井まさし
【佳作】	ありがたや雲雀ないてる美空なり	三橋百笑
	首なしのたんぽぽばかり児のくれむ	三橋百笑
	生け簀浮標(ぶい)四角や丸に春の湾	三橋百笑
	茶畑や人の動けば唄動く	百千草
【佳作】	縄跳びの最後列は春の風	百千草
	押し問答しばし留めて桜かな	百千草
	満開やブルーシートに花筏	森岡香代子
【佳作】	日向ぼっこ高くつきおり紫外線	森岡香代子
	菜の花に照らし出さされ土手の帯	森岡香代子
	贅沢と怠惰の潜みゐる朝寝	八木　健
【佳作】	篝火草は豚の饅頭しくらめん	八木　健
	花屑と呼ばれて軽し掌を零る	八木　健
	歩数計温度計とも立夏かな	八洲忙閑
【佳作】	牧場より牧場広し風薫る	八洲忙閑
	筍の旬を迎へて一句かな	八洲忙閑
【佳作】	あくびする猫には猫の春心	八塚一青
	この山を代々守る蝮蛇草	八塚一青
	卒業す脛と虎の子かじられる	柳　紅生
【佳作】	フェイントをかけてすり抜けシャボン玉	柳　紅生

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	畑を打つ地球二つに割るるほど	柳　紅生
	恋猫は屋根より降りぬニヤオ～ニヤオ	柳澤京子
【佳作】	恋猫のひつかき傷の感染症	柳澤京子
	桜散る父の命日「早う来い」	柳澤京子
	冬は右春は左に影日向	山下正純
	夢色の梵鐘音の霞み行き	山下正純
【佳作】	鴨池のめおとくるくる春ダンス	山下正純
【佳作】	ハンガーのシャツ春の疾風に奪われる	山本けい子
	一斉にベランダの春やって来た	山本けい子
	打つ雨に紫陽花色を輝かす	山本けい子
	おばあさまおもいおこせよ花吹雪	山本　賜
【佳作】	ここまで成長しましたベニシダレ	山本　賜
	百名山九十九残し登山靴	横山喜三郎
【佳作】	疾風に吹っ飛ばされて入試絵馬	横山喜三郎
	ゆるみたる舌禍の口を山笑ふ	横山喜三郎
	縮こまる掲句いぢらし梅雨じめり	吉原瑞雲
	村八分つづくダメ押し春の場所	吉原瑞雲
【佳作】	なみだぐむ巨体絵になる春の場所	吉原瑞雲

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。